

# 中国語チャットで安心受診

## 訪日客向け、紹介や予約

### 日本で人間ドック



中国語チャットの「案内家」で最寄りの医療機関を尋ねることができる

### マーソ、ネットスターズと組む

人間ドック予約サイト大手のマーソ（東京・港、山口博道社長）は、中国語チャットサービスと連携し、訪日中国人向けに日本の医療機関を紹介したり予約を取り次いだりするサービスを始め。日本滞在中でも中国語で気軽に予約ができる点が特徴で、富裕層を中心に中国人の関心が高い医療ツーリズム需要の取り込みを図る。

新サービスは、中国のネットスターズが手がける中国語チャットサービス「案内家」と、マーソの中国人向け人間ドック

問すると、中国人スタッフは通訳を用意するなどがマーソと提携する中国人客に対応した医療機関を紹介する。コンシェルジュのようにおすすめの医療機関を尋ねることも可能だ。人間ドックを日本で受ける際は、中国人スタッフがマーソの中国人向けサイトを紹介し、人間ドックの予約をすすめる。

（日本政府観光局推計）

日通訳を用意するなど、中国人が日本でスムーズに人間ドックを受診できる体制を整える。ウィーチャットの利用者約6・5億人。中国のスマホ利用者の約9割が利用しているという。マーソは「案内家」を通じて割引クーポンを配布し、中国人の利用を促す。2015年に訪日した中国人客数は499万人（二村俊太郎）

（日本政府観光局推計）

最高だった。中国では医療ツーリズムの需要が高く、富裕層の約1割が日本での健診や治療などを希望しているという。マーソは昨年、中国の旅行サイト最大手「シートリップ」と提携。中国人向けに人間ドック予約サイトを開設した。提携する中国人客対応の医療機関数は20施設ある。昨年は約3000人の中国人が、マーソのサイトを通じて日本の医療機関で人間ドックや健診を予約した。今年は1万人の利用を目指す。

マーソは15年2月設立で人間ドックの予約サイトを運営する。800以上の医療機関と提携し、昨年は約10万人が利用した。